



キハ401700形 (M)



キハ401700形 (T)



キハ401700形 (タイフオン撤去車) (M)



キハ401700形 (タイフオン撤去車) (T)



●点・消灯を可能にする「ON・OFFスイッチ」と常点灯基板を装備する、ヘッド・テールライト、前面表示は白色LEDで点灯し、カラープリズムによってヘッドライトは電球色に近い色で、テールライトは赤く点灯します。また、カブラーにはエアホースを再現したボディマウント式密着連杆TNカブラー (SP) を取り付け、付属パーツのジャンパホースや着脱式の幌枠により、さらに実感的な前面とすることが出来ます。

タイフオンを残しながらも、2次車の特徴である前面ジャンパ栓取り付け準備部の凹みが埋められた「キハ401700形」では、各窓のHゴムをグレーで再現、前面表示に「ワンマン」を装着済みとし、交換用に「普通 (白地・青文字)」「快速ワンマン (緑文字)」を付属しています。(写真左上)

また、「キハ401700形 (タイフオン撤去車)」では、ジャンパ栓取り付け準備部の凹みを残しつつも、タイフオンを撤去して

代わりに運転台屋根にホイッスルを取り付け、Hゴムは前面運転席・助手席窓が黒で、その他の窓がグレーの姿を再現しています。なお、別パーツのホイッスルは形態の異なる2タイプを用意、前面表示は「ワンマン」を装着済みとし、交換用に「普通 (紺地・白文字)」「快速ワンマン (赤・緑文字)」を付属しています。また、付属の転写シートには、釧路運輸車両所の一部所属車で見られた、貫通扉の四角い票挿し (写真は反対側の貫通扉に取り付け) を含んでいます。(写真左下)



●モデルは酷寒地用装備の1つである二重窓の側窓を実感的に再現、各ドアの軌摺りと乗降用ドアのステンレス製レールには銀色を入れています。加えて、付属パーツの排障器が付くDT44A・TR227A形台車や、後位側台車脇に取り付ける付属パーツのトイレタンク、運転席側、助手席側で形態が異なる乗務員ステップ、そして細部まで作り込んだ換装後のDMF13系エンジンにより、床下周りも実感的に見せています。

●「キハ401700形」(左)と「キハ401700形 (タイフオン撤去車)」(右)の運転台屋根周り。いずれも列車無線アンテナと信号災害は、別パーツで付属しています。なお、「キハ401700形 (タイフオン撤去車)」のホイッスル取り付け位置は、2箇所を選択可能としています。



キハ40系は1950年代に量産されたキハ10系の置換えを目的に、1977 (昭和52) 年から1982 (昭和57) 年にかけて、総数888両が製造された一般形ディーゼルカーです。同系はキハ40形、キハ47形、キハ48形の3形式で構成し、用途別に酷寒地用、寒地用、暖地用に分かれ、北海道から九州まで全国の非電化線区に投入されました。北海道には酷寒地用で両運転台タイプのキハ40形100番代150両と、片運転台タイプのキハ48形300番代4両、1300番代3両が配置され、JR移行時には157両全車が引き継がれました。JR北海道ではこれらキハ40・48形に対して、エンジンを始めとした走行システムの更新や、ワンマン化、車内アコモデーション更新などの改造を実施、併せて塗色も変更されました。

トミックスではJR北海道のキハ40形改造車の内、オリジナルの100番代2次車 (117~250) をワンマン化した700番代に対し、エンジンと変速機更新の他、アコモデーションの改造、屋根上水タンクの車内移設を行って、1700番代に改められたキハ40形2種4アイテムを新たに発売いたします。ハイグレード仕様のモデルは、前面のタイフオンを撤去したタイプを加え、モーター車にはM-13モーター使用のフライホイール付き動力ユニットを、トレーラーには新集電システムを採用し、いずれも黒色車輪としています。また、各アイテムそれぞれに車体番号、所属標記などの転写シートを付属しています。

引退間近なJR北海道のキハ40形1700番代を、モデルの世界でお楽しみください。

キハ401700形 ディーゼルカー

- JRディーゼルカー キハ401700形 (M)
<7435> 予価¥9,460 (税込)
- JRディーゼルカー キハ401700形 (T)
<7436> 予価¥5,610 (税込)
- JRディーゼルカー キハ401700形 (タイフオン撤去車) (M)
<7437> 予価¥9,460 (税込)
- JRディーゼルカー キハ401700形 (タイフオン撤去車) (T)
<7438> 予価¥5,610 (税込)

JR北海道商品化許諾済

3月発売予定